令和４年７月29日

資料２－２

**神奈川県ライトセンター**

**関係団体ヒアリング結果**

**（当事者意見概要版）**

神奈川県福祉子どもみらい局

福祉部障害福祉課

**情報提供について**

**〇　プライベートサービス**

・プライベートサービスは、依頼してから納品までの時間がかかる。スピーディな対応が必要である。

・そのために、ワンストップ窓口としてライトセンターが相談を受け、県内のボランティア団体に作業を広く依頼してはどうか。

**〇　点字図書館**

・サピエに登録しているが、自分で探しきれないタイトルをライトセンターに探してもらえ、助かっている。

**相談・訓練について**

**〇　ICT関連支援**

・ICT（スマホやパソコン）の訓練の強化をして欲しい。

・視覚障がい者向けにパソコン訓練ができる、専門的な人材を育ててほしい。

**〇　アウトリーチ支援**

・相談訓練に関してもライトセンターからアウトリーチをかけていく必要がある。相談員をライトセンターが派遣して相談や用具の説明を行い、市町村やボランティア団体等と連携してサービスに繋げる。

**〇　弱視の人への支援**

・視覚障がいのうち７～９割が弱視であり、その人たちへの支援ができる場所であって欲しい。

**〇　家族への支援**

・障がいは恥ずかしいことではないと伝えるような家族に対するカウンセリングが大事になる。

**スポーツ振興について**

**〇　地域のスポーツ施設へのアウトリーチ支援**

・最近は、県立スポーツセンターで水泳教室を行っているが、ライトセンターが出向くことでスポーツセンター側も視覚障がい者への合理的配慮がわかってくる。

・地域のスポーツ施設があるので、その環境を視覚障がい者が利用しやすいように整えることがライトセンターの役割ではないか。

・一般のスポーツ施設を使えると言っても、かなり高い能力がないと使えない実情がある。その高いスキルを身に着けるための訓練や環境を整えるアドバイスにライトセンターが関わるシステムが必要。

・これからは一般の人たちと一緒に使えるスポーツ施設を増やしていって欲しい。自分で積極的に開拓していくことも大事。

・ライトセンターから遠い場所でも地域のスポーツ施設を使えるように、県全域で取り組んでもらえるとよい。スポーツの介助をする支援者を養成することが必要。

**〇　ライトセンターのスポーツ施設の維持・改善**

・あれほど視覚障がい者に配慮されたプールは他にないので、有効活用してほしい。

・ライトセンターの更衣室に、ユニバーサル更衣室やカーテンで区切ることのできる場所があるとよい。

・地域にもスポーツ施設があるが、一般的なジムやプールでは視覚障がい等があることで注目を浴びてしまう。ライトセンターは、安心して使える。

・一般のプールだと他の人とぶつかってしまって危ない。利用者が少なくないと使うことができない方もいる。

**〇スポーツ施設の一般開放**

・今後、プールは高齢者など一般の方も使えるようにするといいのではないか。一般の方の視覚障がい者理解にもつながる。ただし、一般の方の人数制限や視覚障がい者優先利用時間などを設けることは必要。

**〇スポーツ施設の利用時間**

・学校や仕事の後に運動をしに行きたいが、今は夕方に閉まってしまうので、ライトセンターを利用することが出来ない。

**ボランティア育成について**

**〇　地域ボランティアの養成**

・点訳者音訳者の養成についてライトセンターだけでなく、他の地域でも行っていかないといけない。

・ライトセンターには遠くて行けない人が、地域でのボランティアの支援を受けられるように、それぞれの地域でボランティアを育成して欲しい。

**〇　代筆・代読ボランティア**

・専門性のあるボランティアの代筆・代読支援があり助かっている。

**〇　ボランティアの高齢化**

・ボランティアは高齢の方が多く、技術などの引継ぎ面で、若い方が少ないのは今後心配がある。

**普及啓発について**

**〇　晴眼者への普及啓発**

・ライトセンターを知らない人たちに情報を届けた方がいい。県のたより等で紹介してほしい。

・視覚障がい者を知ってもらうという点で、ライトセンターの会議室を一般の方にも利用してもらうのはどうか。

**〇　わかりやすい情報発信**

・何ができる施設なのかがよくわからないので行けていない。もっと詳細な情報を公開してほしい。

**〇　病院への積極的な周知**

・見えなくなってからライトセンターとつながるまでに時間がかかってしまう。診断を受けた時点で、ライトセンターのような施設があると知れるとよい。

・積極的にライトセンターの必要性を眼科にも発信して伝えていく必要がある。

**〇　弱視の方の利用を促す周知**

・弱視の人の目線に立って、弱視でも行っていいと思えるような周知をしてほしい。

**〇　福祉教室**

・現在、ライトセンターの行っている福祉教室は、障がいを個人モデルとしたもの。社会モデルの考え方で福祉啓発活動も行うべき。

**視覚障がい者支援全般について**

**〇　視覚障がい者の就労支援**

・見えなくても働けることを周知していかなければならない。視覚障がい者への就労訓練サポートがない現状を、打破してもらいたい。

・１つの職として、音声パソコンを教えられる指導者を養成して欲しい。

**〇　視覚障がい児への支援**

・単一視覚障がいだと、経過観察で８歳頃まで視覚障がいの判定をもらえず、手帳を持てない子どももいる。そのため、同行支援や療育のような支援を受けることができないこともある。

・子どもの年齢が小さいうちは保護者が支援するものだと言われてしまうことも多く、育児の孤立で心身のバランスを崩すケースも多い。

**その他意見について**

**〇　ライトセンターの専門性**

・ライトセンターのような専門性を求められる施設で職員が短期間で異動するというのはよいことではない。

・常勤職員が減っており、施設の持つ目的が達成できなくなる

**〇　居場所としてのライトセンター機能**

・コロナ禍で閉館していたことについて、ライトセンターには視覚障がい者が集える場所としての機能を維持して欲しい。

・ライトセンターのような場所が、上下左右につながれる集いの場であってほしい。

**〇　利用時間**

・閉館時間が早く、社会参加している人たちは利用できない。社会に自立している視覚障がい者が利用できるよう、毎日でなくてもいいので働いている方も来られるように夜間も開けてほしい。

**〇　乳幼児相談・教育について**

・キッズルームの利用者は少ないと思うが、非常に大事な場所であると思う。

・福祉や保健に関わる情報を保健師が知っていてくれると助かる。支援機関に早くつながれた方が気持ちが楽になる。

・「行きたいときに行くと誰かがいる」という場の提供が重要。状況をわかり合える親が集まれる場所はとても貴重。ライトセンターにあったひよこ教室のように「頑張らなくてもいい、気が抜ける場所」を作りたい。